

東京都立 日比谷 英語 出題傾向と対策

出題傾向の分析

①はリスニングテスト。短い対話やメッセージを聞き、その内容についての問いに答えるもので、共通問題と同じ問題です。このほかの大問は 2 つで、会話と物語(物語についてはエッセーの場合もある)で構成されます。長文中では、基本的に 10 代の(受験生と年齢の近い)子が登場します。設問形式は、脱文挿入や抜き出し、並べかえ、内容一致、下線の意味を問うものが近年通じて見られます。②(会話)では、絵を見て答える問題も 1 つ出されます。なお、日本語で記述し答える設問は出題されません。点数の分かれ目は「条件英作」です。「本文の流れに合うように」や「本文をふまえて」という設問が多く、前後で使われている単語、事実関係を確認する必要があります。とにかく書けば点がもらえるわけではありません。的確な論理的思考力があるかどうか判断される設問であると言えます。

入試までに準備しておくこと

文章中に使われている単語、表現は決して難しいものではありません。リスニングを除く大問が 2 題ですが、条件作文は、ある程度の時間をかけないと、本文と無関係の答えを出してしまいやすいので、過去問演習では、条件作文以外の設問を速く終わらせるように練習を

しておきましょう。そのためには、長文をスピーディーに読む必要があります。1 度読んだ長文でも構いません。できる限り多くの長文にふれ、必要な情報をより速く・より正確に見つけられるようにしましょう。また小問 1 つ 4 点なので、仮にケアレスミスでも、それは大きな失点となります。油断は禁物です。

日比谷高校のように論理的思考力を見る条件作文は、他都立でも見られない特徴的な問題です。何より過去問演習を繰り返すことが最も重要です。解説をしっかりと読み込み、なぜその解答になるのか、根拠となる部分を見つけること、解答にたどり着くまでの過程を理解することから始め、徐々にこの出題の形式に慣れてゆきましょう。

リスニングは、継続的に英語を聞き取る練習が必要です。英検準 2 級・3 級程度の聞き取り問題で練習することが効果的です。

英語 分野別出題形式		22年度	21年度	20年度	
リスニング	記号	内容理解(含英問英答)	12	12	12
	記述	英問英答	8	8	8
		和問和答			
小計		20	20	20	
語彙	記号	綴り			
		語形変化			
	記述	発音・アクセント			
小計					
文法	記述	適語(句)選択			
		適語(句)補充			
		語順整序			
	記号	部分英作			
		完全英作			
小計					
読解	記号	内容理解(含英問英答)	24	24	24
		内容一致	8	8	8
		段落・文整序			
		段落・文・節挿入	8		4
		適語(句)・文選択		4	4
		語順整序	4	4	4
	記述	内容理解(指示語など)			
		語形変化			
		空所補充	8	16	8
		和文英訳			
		部分英作			
		英問英答			
		条件英作	20	24	28
和問和答					
小計		80	80	80	
合計点		100	100	100	

東京都立 日比谷 国語 出題傾向と対策

出題傾向の分析

例年通りの大問 3 題の構成で、総小問数は 25 題でした。

㊦は、例年通り「成長」をテーマとする小説が出題されています。心情を言動と状況から正しく判断する設問で、それほど難解ではありません。

㊧は哲学者河村次郎と社会学者大澤真幸という近年注目の研究者の文章から出題されています。文章内容は平易ですが、文章そのものがややまわりくどく、受験生は読解に時間がかかると思われます。設問は傍線部の言い換えが多い一方、問 6 では「論理構成」を問う設問も見られます。日比谷高校の「文章全体の構成を理解する読解力を身につけて欲しい」という強いメッセージが読み取れるでしょう。恒例の 250 字小論文は要約や論文作法の訓練が必要です。

㊨も例年通り古典を題材にした論説的随筆です。考えて問題を解く時間を確保できれば文章も設問も難易度は高くありません。例年よりやや易しい印象で

すが、本文中から抜き出して答える記述問題を除く 32 点分が論述記述問題であり、論述記述の力が極めて重要になっていると言えます。

国語 出題分野一覧表		22年度		21年度		20年度	
		記号	記述	記号	記述	記号	記述
漢字語彙	漢字の読み取り		8		8		8
	漢字の書き取り		8		8		8
	四字熟語・語彙						
文法・表現							
敬語							
資料を含む文章							
小説	心情を問う設問	12	10	8	7		
	場面を問う設問			8			
	語句			4			
	本文との正誤問題						
論説	接続語の補充						
	傍線部の理由を問う設問					8	
	傍線部の説明を問う設問	12	8	12	6	4	6
	段落関係を問う設問	4		4		4	
	語句						
	本文との正誤問題						
鑑賞文	接続語の補充						
	傍線部の理由を問う設問					8	
	傍線部の説明を問う設問					20	7
	韻文の表現を問う設問					4	8
	語句						
	本文との正誤問題						
随筆	接続語の補充						
	傍線部の理由を問う設問						
	傍線部の説明を問う設問	8	15	12	8		
	段落関係を問う設問						
	語句						
	本文との正誤問題						
作文			15		15		15
合計			100		100		100

入試までに準備しておくこと

漢字の書き取りは小中学校で学んだものから出題されますが、知っている漢字を使っている、知らない熟語であるために字を思い浮かべることができず、解答できないことがあります。漢字は例文ごと覚えるように意識して練習しましょう。

記述形式で解答する問題の分量が多いこと、問題の文章量が多いことにより、時間内に解答しきることが何より重要になります。頻出のテーマに関する知識をあらかじめ身につけておくことと素早く読解できるでしょう。また、鑑賞文の読解にも慣れておく必要があります。さらに、自分の考えを短時間で端的にまとめる練習を積んでおく必要があります。小論文の練習をし、書いたものは必ず他の人に見てもらいましょう。

東京都立 日比谷 数学 出題傾向と対策

出題傾向の分析

出題構成は例年通りの大問4題、うち1題が独立小問集合形式で、総小問数は、14題でした。

[1]は平方根の計算、2次方程式、不定方程式、円周角、確率の5題でした。毎年、平方根の計算は工夫ができることが多いですが、ひたすら計算する問題でした。代わりとして不定方程式という因数分解を利用する2元2次方程式が出題されました。

[2]は正六角形の問題で、作図と合同な正六角形の重なり部分の面積に関する問題が出題されました。この面積の問題のうち1題は記述問題でしたが、頂点を共有する正多角形が合同な図形を作りやすいことを知っていれば、解けたと思われます。

[3]は2次関数で、いくつかの関係式から座標の差を求める問題、面積に関する記述の問題、面積2等分の問題でした。条件から座標の位置関係を把握すること、やや複雑な計算を正確に処理することが求められました。

[4]は空間図形で、表面上の最短距離、空間内の三角形の面積、四角すいの体積の問題でした。表面上の最短距離は、昨年に引き続いての出題であったため、正答率が高かったと思われます。[問2]は切断面として考えると、正六角形となる図ですが、記述問題の場合、その説明に時間を割かれるため、二等辺三角形として考えた方がよいでしょう。

入試までに準備しておくこと

純粋な証明問題の出題はありませんでしたが、[2]の正六角形の面積に関する記述は合同から説明をする問題なので、今後も訓練は必要です。また、例年以上に計算の複雑な問題が多く、1題1題の配点が大きいので、正確な計算力が要求されます。ただし、少しでも複雑な計算や長い記述解答を回避するためにも次の3つの対策をしましょう。放物線と直線の公式などの頻出ポイントを身につけること、記述問題にて図を利用すること、都立自校作成校の問題を解いて、作図、証明、記述問題に慣れることです。

領域	内容	配点		
		22年度	21年度	20年度
数と式	数の性質・表現			
	数の計算			
	式の計算			
	平方根	5	5	5
	多項式の乗法			
	因数分解			5
	小計	5	5	10
方程式	1次方程式			
	連立方程式		5	
	2次方程式	5		
	方程式の応用	5		
	不等式・不等式の応用			
	小計	10	5	0
関数	比例と反比例		5	
	1次関数			
	2次関数	7		
	変化の割合・変域			5
関数と図形	直線と曲線			
	関数と図形	18	25	25
	小計	25	30	30
三角形・四角形	角度			
	作図	8	8	7
	合同	10		
	相似			10
	三角形	7	7	5
	平行四辺形		10	
円と平面図形	円周角の定理	5	5	
	円と弧・弦・接線			
	線分、線分比			8
	面積、面積比			
	点の移動と図形			
空間図形	線分、線分比	7	17	7
	面積、面積比	12		
	体積、体積比	6	8	11
	点の移動と図形			7
	回転体、球			
	小計	55	55	55
確率	場合の数			
	確率	5	5	5
総合問題	数と式			
	図形			
	その他			
	小計	5	5	5
	合計	100	100	100